

2026/27 シーズンに向けたインフルエンザワクチン接種に 関する考え方とトピックス

● 2026/27 シーズンにおいてもインフルエンザワクチンの接種を強く推奨します

2025/26シーズンは2025年11月頃から年末にかけてA(H3N2)亜型サブクレードKによる流行と、2026年1月以降のB型の流行による2峰性の大きな流行となり、厚生労働省による季節性インフルエンザの患者報告数から合算した累積のインフルエンザ推計受診者数は約2245.1万人となりました¹⁾。

この累積報告数は、コロナ禍明けの秋から春先まで流行が続き、3年ぶりに大きな流行となった2023/24シーズンの約1,800万人、年末から年明けにかけて急激な流行が起こり、定点当たりの受診患者数が現行の報告体制となった1999年以降最大の64.39/週を記録した2024/25シーズンの約1,100万人を超えました^{1,2)}。2025/26シーズンからインフルエンザの報告定点数や罹患患者数推計システムが変更されたため、直接の比較はできませんが、これまでと同等かそれ以上のきわめて大きな流行であったことを示しています。

わが国の近年のインフルエンザワクチン使用量は、2020/21シーズン以降は低下の一途をたどり、2024/25シーズンは4,581万本（供給量5,338万本）でした。2025/26シーズンは使用量4,621万本（供給量5,362万本）と若干持ち直しましたが³⁾、現状のワクチン接種率は十分に高いとは言えず、インフルエンザ対策として重要なワクチンの接種率をさらに向上させることが必要と考えます。

世界的にはA(H3N2)亜型サブクレードKが流行した2025/26シーズンのワクチン効果の低下が懸念されましたが⁴⁾、ワクチン接種直後におけるインフルエンザに関連する救急外来受診および入院に対するワクチンの有効性は、小児および青年（18歳未満）で72～75%、成人で32～39%と、ワクチン接種は、A型インフルエンザ（H3N2）ウイルスによる臨床症状に対して依然として有効であることが示されました⁵⁾。

さらに、一足先にインフルエンザシーズンを迎えた南半球のオーストラリアでは、2026年6月から7月にかけて検出されたインフルエンザウイルスに関して、A型インフルエンザ（H1N1）分離株の100%（102/102）、A型インフルエンザ（H3N2）分離株の76.5%（280/366）、およびB型/ビクトリア系統の分離株の89.5%（77/86）が、抗原的に2026年の南半球用ワクチンの対応する成分と類似しており、北半球においても一定以上のワクチンの効果が期待できるようです⁶⁾。

したがって、今シーズンも高齢者、小児、施設の入所者、介護者、そして医療従事者にはインフルエンザワクチンの接種を推奨します。わが国では2025/26シーズンから3価ワクチンへ変更されました³⁾。

この2026/27シーズンに向けては、

A/スイス/6849/2025 (IVR-278)

A/ミシガン/105/2025 (SAN-049A)

B/東京/EIS13-175/2025

の使用が決定しています³⁾。

- **新規ワクチン（経鼻弱毒生ワクチン、高用量不活化ワクチン、mRNA ワクチンなど）への期待**

わが国において経鼻弱毒生ワクチン（LAIV）（商品名フルミスト[®]点鼻液）は、2024年9月26日に発売され、2024/25シーズンから使用が開始され、今シーズンは3シーズン目となりました。適応年齢については2歳から19歳未満で、接種回数は1回の3価ワクチンです。2024/2025シーズンにおける市販後調査にて、A（H1N1）pdm09に対するワクチン有効率は46.0%でした⁷⁾。A（H3N2）亜型サブクレードKが優勢であった2025/26シーズンにおける、日本の小児を対象としたインフルエンザワクチンの有効性評価研究では、A型インフルエンザに対する調整済み予防効果（VE）は、標準用量不活化ワクチンで43%、フルミストの接種者の数は少なかったものの81%と推定されました⁸⁾。

高用量不活化ワクチン（商品名エフルエルダ[®]）は、2024年12月27日に製造販売が承認されましたが、現時点では未発売です。適応は60歳以上のシニア世代です⁹⁾。2026/27シーズンからは75歳以上を対象に定期接種へ導入される予定でしたが、国内での製造・供給上の問題により、2026/27シーズンの導入は見送られました¹⁰⁾。海外での大規模臨床研究では標準用量不活化ワクチンと比較して、有意な重症予防効果が確認され¹¹⁾、今後のわが国での本格的な使用が待たれます。

さらに、開発中のワクチンもあります。mRNAベースの季節性インフルエンザワクチンは、2026年8月に米国で50歳以上を対象としてFDAの承認を受けました¹²⁾。季節性インフルエンザと新型コロナウイルスの混合ワクチンの開発も進み¹³⁾、これらのわが国での開発が期待されます。

- **高齢者や重症化リスク因子を持つ方へは肺炎球菌ワクチンや新型コロナワクチン、RSV ワクチンの積極的な接種も強く推奨します。**

高齢者やリスク因子を有する方にはインフルエンザ罹患後の続発性細菌性肺炎の予防も重要です。

肺炎球菌が代表的な市中肺炎の原因菌であり、成人の肺炎球菌ワクチンでは20価結合型ワクチ

ン（PCV20：商品名プレベナー20[®]筋注シリンジ[®]）と21価結合型ワクチン（PCV21：商品名キャップボックス[®]筋注シリンジ[®]）が主に使用されています¹⁴⁾。現時点ではPCV20が定期接種ワクチンであり、PCV21はこれまでの肺炎球菌ワクチンより高い血清カバー率が示唆されています。

また、新型コロナワクチンに関しては、2024年4月1日からインフルエンザワクチン同様に定期B類接種となりましたが、接種率の低下が懸念されています¹⁵⁾。5種類のワクチンが接種可能です。高齢者ではインフルエンザワクチンと新型コロナワクチンの同時接種を積極的に推奨します。

さらに、高齢者ではRespiratory syncytialウイルス（RSV）ワクチン接種も継続して推奨され、2種類のRSVワクチンがわが国でも使用可能です¹⁶⁾。

【文献】

- 1) 厚生労働省. 季節性インフルエンザの患者報告数（感染症発生動向調査（定点報告））
<https://www.mhlw.go.jp/content/001697507.pdf>
- 2) 国立感染症研究所. IDWR 2024年第52号<注目すべき感染症> インフルエンザ
<https://idinfo.jihs.go.jp/surveillance/idwr/idwr/2024/52/article/index.html>
- 3) 第4回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会. 季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの製造株について検討する小委員会 資料 4 2026年5月28日. <https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001702434.pdf>
- 4) Quarleri J, Delpino MV. Is the emerging influenza A(H3N2) K subclade a specific threat for older adults? Geroscience 2026; 48: 225-8. DOI:10.1007/s11357-026-02108-y
- 5) Kirsebom FC, Thompson C, Talts T, *et al*. Early influenza virus characterisation and vaccine effectiveness in England in autumn 2025, a period dominated by influenza A(H3N2) subclade K. Euro Surveill 2025; 30: 2500854. doi: 10.2807/1560-7917.ES.2025.30.46.2500854
- 6) Australian Respiratory Surveillance Report - 29 June 2026 to 12 July 2026
<https://www.cdc.gov.au/resources/publications/australian-respiratory-surveillance-report-29-june-2026-12-july-2026>
- 7) 第一三共株式会社. フルミスト[®]点鼻液 使用成績比較調査 ―フルミスト[®]点鼻液のインフルエンザ発症予防効果の経年的な検討に関する症例対照研究―第1回調査集計結果.
[https://www.medicalcommunity.jp/filedsp/products\\$druginfo\\$news\\$2026\\$260804_flml/field_file_url](https://www.medicalcommunity.jp/filedsp/products$druginfo$news$2026$260804_flml/field_file_url)
- 8) Shinjo M, Furuichi M, Sugimoto R, *et al*. Effectiveness of inactivated and live-

attenuated influenza vaccines in children during the 2025–2026 influenza season with genetically distinct influenza A and B viruses. Vaccine 2026; 88: 128869. doi:10.1016/j.vaccine.2026.128869.

- 9) 日本感染症学会インフルエンザ委員会. 高齢者に対する高用量不活化インフルエンザワクチンの使用について～医療機関の皆様へ～
https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/influenza_2606.pdf
- 10) サノフィ株式会社. 高用量インフルエンザHAワクチン「エフルエルダ®筋注」 発売時期の変更 <https://www.sanofi.co.jp/assets/dot-jp/pressreleases/2026/260721-02.pdf>
- 11) Johansen ND, Modin D, Pardo-Seco J, et al. Effectiveness of high-dose influenza vaccine against hospitalisations in older adults (FLUNITY-HD): an individual-level pooled analysis. Lancet. 2025; 406: 2425–34. doi: 10.1016/S0140-6736(25)01742-8
- 12) Moderna. Moderna Receives U.S. FDA Approval for Influenza Vaccine mFLUSIVA August 6, 2026.
<https://feeds.issuereirect.com/news-release.html?newsid=4801915282452025&symbol=MRNA>
- 13) Moderna. Moderna Announces Positive Phase 3 Data for Combination Vaccine Against Influenza and COVID-19. June 10, 2024 <https://feeds.issuereirect.com/news-release.html?newsid=6378639763872681&symbol=MRNA>
- 14) 日本呼吸器学会 感染症・結核学術部会ワクチンWG/ 日本感染症学会ワクチン委員会/日本ワクチン学会・合同委員会. 65 歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方（第8版 一部修正 2026 年 7 月 15 日）
https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/o65haienV/o65haienV_260715.pdf
- 15) 日本感染症学会 ワクチン委員会・COVID-19 ワクチンタスクフォース. COVID-19 ワクチンに関する提言（第 11 版）—LP. 8. 1/XEC 対応ワクチンの任意接種を中心に
https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/2509_covid-19_11.pdf
- 16) 日本感染症学会 日本呼吸器学会 日本ワクチン学会. 成人のRSウイルスワクチンに関する見解 https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/251211_rs_kenkai.pdf

2026 年9月18日

一般社団法人日本感染症学会 インフルエンザ委員会

青木洋介、石田 直、國島広之、佐藤晶論、新庄正宜、関 雅文、田村大輔、永井英明、
藤田次郎、三鴨廣繁、中野貴司（委員長）

利益相反自己申告（2023～2025年）

- 青木洋介はMSD（株）、塩野義製薬（株）、ファイザー（株）から講演料を受けている。
- 石田直はアストラゼネカ（株）、MSD（株）、杏林製薬（株）、サノフィ（株）から講演料を受けている。
- 國島広之は塩野義製薬（株）、第一三共（株）、Meiji Seikaファルマ（株）、ミヤリサン製薬（株）より講演料を受けている。
- 國島広之はミヤリサン製薬（株）より研究費を受けている。
- 関 雅文は、MSD（株）、杏林製薬（株）、グラクソ・スミスクライン（株）サノフィ（株）、塩野義製薬（株）、第一三共（株）、武田薬品工業（株）、ファイザー（株）、Meiji Seika ファルマ（株）、モデルナ・ジャパン（株）から講演料を受けている。
- 田村大輔はアボット ダイアグノスティクス メディカル（株）、積水メディカル（株）から研究費を受けている。
- 永井英明は、塩野義製薬（株）から講演料を受けている。
- 中野貴司は、KMバイオロジクス（株）、グラクソ・スミスクライン（株）、サノフィ（株）、塩野義製薬（株）、第一三共（株）、武田薬品工業（株）、田辺ファーマ（株）、Meiji Seika ファルマ（株）、モデルナ・ジャパン（株）から講演料を受けている。
- 藤田次郎は、MSD株式会社、ギリアド・サイエンシズ株式会社、塩野義製薬株式会社から講演料を受けている。
- 三嶋廣繁は旭化成セラピューティクス（株）、MSD（株）、杏林製薬（株）、ギリアド・サイエンシズ（株）、グラクソ・スミスクライン（株）、サラヤ（株）、塩野義製薬（株）、住友ファーマ（株）、第一三共（株）、武田薬品工業（株）、（株）ツムラ、ニプロ（株）、日本ベクトン・ディッキンソン（株）、ファイザー（株）、（株）フコク、ミヤリサン製薬（株）、Meiji Seikaファルマ（株）、ロシュ・ダイアグノスティクス（株）より講演料を受けている。
- 三嶋廣繁は杏林製薬（株）、（株）日立ハイテック、ミヤリサン製薬（株）、ロシュ・ダイアグノスティクス（株）より研究費を受けている。
- 三嶋廣繁は旭化成セラピューティクス（株）、住友ファーマ（株）、（株）フコク、富士フイルム富山化学（株）より奨学寄付金を受けている。
- 佐藤晶論、新庄正宜については申告すべきものなし。